

出題分析		
試験時間 90 分	配点 ※	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
【概評】 ここ数年、関大の英語は出題の形式に大きな変化はなく、その分対策がしやすいと言える。だが、それぞれの大問にいくつか紛らわしい設問が見受けられ、そうした問題にいたずらに時間を取られないよう注意することが必要である。試験時間は 90 分で、大問は 3 題。大問 I は、会話文の空所補充と、文整序から成る。大問 II の長文読解は、空所補充と内容一致文完成が出題される。大問 III の長文読解は、質疑応答と内容一致文完成が出題される。		

※ 学部・型・方式により、配点が異なる。入試要項を参照。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	A. 会話文 「自転車旅の予定」 ○166 語(昨年: 150 語)	A は学校の駐輪場での友人同士の会話。いずれの設問も、空所の直前直後の会話の流れがヒントになる。	標準
	B. 文整序 「ニュウドウカジカの見た目の理由」 ○240 語(昨年: 247 語)	B はニュウドウカジカという深海魚について述べられた文章。選択肢 E の最終文の理由にあたる内容が述べられているのは選択肢 D と B で、それぞれの文頭が対比になっているため順番を判断しやすい。選択肢 F の内容が、選択肢 B の最終文の it transforms の説明になっている。	標準
II	長文読解 「どのようにケンタッキー・フライドチキンが日本のクリスマスの定番になったか」 ○語数: 919 語 (昨年: 916 語)	どのようにケンタッキー・フライドチキンが日本のクリスマスの定番になったかを述べた文章。話の筋道をしっかり追いながら A の空所補充と B の内容一致文完成を同時に解いていくことが重要になる。関大の内容一致文完成は、4 択ではなく、3 択で、パラグラフが指定されている問題がほとんどのため、対応箇所は絞り込みやすい。B(4)は選択肢 B が紛らわしいが、因果関係がずれてしまう。	標準

設問別講評			
III	長文読解 「なぜ人は遅刻する のか」 ○語数：831 語 (昨年：844 語)	いつも遅刻する人は何が原因でそうなるのかについて様々な研究を基に論じた文章。設問は総じて取り組みやすい。下線部④の They は、前後から「研究者が(結果を)見出した」という内容だから researchers を指す。なお、続く動詞 found の目的語となる that 節中の they は、 participants を指す。B の内容一致文完成の(2)は、 the 比較級 ~、 the 比較級 ~ の比例関係を見定めよう。本文に合うものを選ぶ必要がある。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)					
大問 番号	設問数	選択式			
		空所補充	文整序	内容一致文完成	質疑応答
I	2	5	6		
II	2	15		7	
III	2			7	10

※「選択式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。

合格のための学習法
<p>長く重厚な文章を読ませる関西大学の入試で合格点をとるには、文法に基づく強靱な読解力を身につけることが肝要だ。そのためには早いうちに英文を読むための文法をしっかりと理解し、身につけておかなければならない。同時に辞書を引きながら毎日こつこつ英文を読み進めていこう。その際に速く読もうとしてはいけない。スピードを気にすると読解力は身につかないからだ。まずはゆっくり読めるようになろう。そうなればスピードは後から自然についてくる。また、単語・熟語集を毎日少しずつやることも忘れずに。これらのことを1年近くに渡って続けた人間だけが合格の喜びを味わえるということを、ぜひ忘れないでほしい！</p>